

播磨 ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 館長 宮柳靖
☎079(435)5000

Mystery.9

学校が住民を二分!?

播磨町には、江戸時代11の村(東本庄・西本庄・宮北・野添・古宮・大沢・東中野・経田・古向・宮西・二子村)がありました。江戸時代の元禄年間(1690年代)には、農村や漁村でも寺子屋が開かれるようになり、元禄9(1696)年、本庄村の阿閩神社で宮司さんが生徒50人に読み書きと習字を教えた記録が残っています。江戸時代も終わりの天保年間(1830年代)には、寺子屋や私塾が著しく増え、大中村の善福寺でお坊さんが生徒20人に習字を教えています。その後、古宮村の良仙寺でも読み書きと習字が教えられ、彦太郎(新聞の父と称されるジョセフ・ヒコの幼名)も通っていたようです。播磨町は、他市町に比べてお寺や神社が多く、私塾も開かれていたので昔から教育熱心な地域だったようです。

明治5(1872)年、学制(日本最初の近代的学校制度を定めた教育法令)が公布されると、同年11月には本庄、宮西、古宮を校区とする本庄小学校が松田富数さん宅(本庄)に、大沢、野添、二子、古田、東中野、山ノ上を校区とする大澤小学校が善福寺に創設されました。明治17年には阿閩小学校が誕生しますが、これは本庄小学校を本校とし、大澤小学校を分校とした学校でした。明治25(1892)年、現在の播磨小学校の前身の阿閩



▲尋常・尋常高等小學校教科書(大正時代) 寄贈 佐伯了さん

- 尋常小学校が誕生しますが、校舎建設には紆余曲折がありました。
- 明治29(1896)年、村議会で新校舎建設が可決されますが、建設場所をめぐる住民の意見が対立し、子どもを学校に行かせない、村税を納付しないという事態にまで発展し、明治31(1898)年には建設をやむなく延期しています。明治33(1900)年4月、ようやく本庄村と野添村の境界地(現播磨小学校敷地)に建設場所が決まり、同年9月1日に待望の新校舎が完成し、記念式典が催されています。当時の建設費用は3,458,000円でしたが、式典費用は、角力(相撲)費40円、餅投費25円、招待費等45円の計110円でした。これを見ると、いかに当時の人々が新校舎完成を喜び、地域の誇りとしていたのかを伺い知ることができます。
- 今年、蓮池小学校開校40周年、県立播磨南高等学校開校30周年の年にあたります。学校は、卒業生・地域の人々にとって心より所であり、ふるさとなのかもしれません。

町の人口 11月1日現在 住民基本台帳人口+外国籍人口。()は前年比。

34,782人(+7人)	男…17,062人(+9人)	世帯数…14,262世帯(+6世帯)
	女…17,720人(-2人)	

